

【様式①】令和5年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立市橋小学校

校長名 寺田 幸広

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	○自ら追究・探究したくなる課題の設定や活動・交流を位置付け、楽しく学び合い、主体的に表現することができる授業の改善 ○互いに心を開いて対話を重ねたり、有効なデジタル機器を用いたりして、誰もが主体的に学べる授業の改善と実施	B	・子どもが追究したくなる課題の設定や必然のある追究場面で、ICTを有効活用した導入・調べ学習や交流を位置付けることができた。 ・課題とまとめが明確に連動し、学習内容が分かりやすい授業実践が増えてきた。また、タブレット端末を有効に活用できるように、教師間で実践交流を行って手立てを工夫し、実践に活かすことができた。 ・英語専科及びALTが軸となって、楽しい英語授業を考案し、実践した。	・子ども達は落ち着いて学習に取り組んでおり、教師や仲間の話もよく聞いているが、自信をもって自分の考えを発表することについてはやや消極的である。 ・子ども達にとって、より分かりやすくなるような電子黒板・タブレット端末の有効活用や授業改善がなされている。 ・英語の授業で、児童が楽しく授業に取り組み、日常生活に役立てる実践的な内容を学んでいる。	・子ども達の主体的な学習につながるような課題設定や追究場面等について見直す。特に、自分の考えを話す・仲間と交流するなどの表現活動の工夫についてはさらに授業改善を図る。 ・理解に困難さのある子どもに寄り添いながら、より分かりやすい授業となるよう、タブレット端末等を有効活用しながら工夫・改善を行う。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	○学校運営協議会を核とした、地域の人的・物的教育資源の積極的な活用と「子育てプログラム」の推進による地域に根ざした心身ともに健康な子どもを育む活動の充実 ○9年間の子ども育ちを踏まえて、精華中・幼保園との丁寧な引継ぎと、子どもの学び・活動・教育過程の交流と共有	A	・総合的な学習の時間や生活科、社会科など、地域の人材や施設を積極的に活用することができた。また、地域の方々と接する中で、感謝の気持ちをもって活動することができた。 ・中学校区の特徴や願う子どもの姿を共有することで、ふるさと・地域を活かした活動や学びに意図的に取り組むことができた。また、幼保子ども園からの引き継ぎの内容を踏まえて、支援や配慮に役立てることができた。	・地域の人材や施設を積極的に活用し、体験を重視した活動が積極的に行われている。地域としても、子ども達の活動にかかわることができていへん嬉しい。 ・小学校区の地域活動への中学生ボランティアの参加者が毎回多数みられ、小中9年間の子どもの育ちという視点からも、地域や地域の人々への感謝や貢献する子が育まれている。	・「子育てプログラム」の内容項目を学校運営協議会・支援推進委員会で検討し、実践する。 ・「ぎふMIRAI's」構想を踏まえ、精華中学校区で9年間を見通した総合的な学習の時間の再検討・改善を進める。 ・取組や活動を改善しながら継続しつつ、今後もその成果を家庭や地域に発信するように努める。
あたたかさど働きがいにあふれる学校づくり	○教職員のコミュニケーションの活性化による働きがいを見い出せる職場づくりと、ICTの普段使いによる子どもの実態に合わせた授業づくりの推進 ○自ら学び続け専門職性を高めるため、OJTを通じて日常的に学び合う校内研修の充実	B	・子どもの「主体的な学び」が実現できるように、教職員の授業改善に費やす時間を生み出し、ICTを活用した研修や授業過程における手立て等を具体的に学ぶ研修を実施した。 ・教職員の経験や実態に合わせて、学級経営や子どもの実態のとらえ方など、学年会や研修を通して互いに学び合う場を設けた。	・子ども達の学習や自己肯定感の向上に向けて、組織的に工夫して取り組み、成果をあげている。 ・今後も教職員の実態や経験に合わせて、学年でよく話し合ったり学び合ったりして、明るい開かれた雰囲気の中で、子どもたちの力を伸ばしていってほしい。	・教職員の働きがいを「子どもの主体的な学びの実現」を実感することとして、どの教職員も自己のよさを発揮しながら、取り組んで成果を出せるよう、実態や経験に合わせた研修や学び合いの場を積極的に取り入れていく。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	○複数の緊急事態・災害時を想定し「自分の命は自分で守る」態度を育む、日常活動・命を守る訓練の実施と改善 ○安心・安全な生活を守るための「いじめ防止基本方針」の徹底、個人情報管理、情報セキュリティ等、危機管理意識の向上を図るための研修の実施と実践、見直しと改善	A	・意図的・計画的な訓練を年間を通して実施し、「自分の命は自分で守る」意識を高めるための事前・事後指導をすることができた。 ・一人一人の命の大切さを主眼に、危機管理対応マニュアル等を見直し、改善して実践にあたった。子どものどんな些細な心の変化にも寄り添えるように努めるとともに、具体的な研修を実施し学んだ。	・今後も、全教職員で子どもの命を守るための確かな動きをつくり、安心で安全な学校生活が送れるように子ども達を守っていききたい。 ・いじめを「見逃さない」意識で学校が一丸となって対応できているため、全校数が多いのに事案はとてもし少ない。今後も、一人一人の子ども・命を大切にできる安心・安全な学校であってほしい。	・登下校時の安全確保や災害時での対応等、今まで以上に子ども達一人一人の「自分の命は自分で守る」意識を高め、実践につなぐことができるよう指導を継続する。支援推進委員会の安心安全部会で改訂された通学路交通安全マップを有効活用する。 ・全教職員が緊急事態に対応できるように研修と実践を積み、その都度、改善点を生かして取り組む。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	○施設設備の危険箇所等の早期把握と修繕、ICT機器等の整備点検を図り、子どもも教職員も安心・安全な教育環境づくり ○財務の確実な会計処理による適正管理と透明化	A	・安全点検のみならず、日常から全教職員で気付いた箇所を速やかに修繕し、安全な環境整備に努めることができています。また、教室の前面や側面等の掲示について精選したことにより、学習に集中できる環境整備をすることができた。 ・学年会計、修学旅行や教材等の業者選定に保護者代表が参加し、透明化を図っている。	・校舎は古いですが、子どもたちが大切に使用したり、職員が丁寧に修繕したりして、学ぶ環境を大事にしていることがよく分かる。 ・施設・設備が老朽化しており、学校職員による改善には限界がある。 ・学校財務については、ペーパーレス化も進んでおり、かなり節約できている。今後も、適正な管理と透明化を願いたい。	・学校・家庭・地域のどの場面でも、子ども達の物を大切に使う気持ちやよさが発揮できるよう、さらに連携を深める。 ・PTAや地域の協力を得て、施設・設備等の環境整備を進めていく。 ・全教職員の危険箇所等についての危機意識を強く持ち続けるように努める。